

## 会議録

進 行 秋 元 教頭  
記 録 浅 田

- 議 題 平成21年度 第3回 学校協議会
- 開催日時 平成22年3月13日
- 開催場所 本校 応接室
- 出席者 [委員] 柿原委員 北浦委員 芝井委員 立石委員 宮坂委員  
[学校] 松本(校長) 秋元(教頭) 小野(事務長)  
山本(首席・学習指導室長) 堀(指導教諭・学校運営室長)  
浅田(学年室長)
- 資料 1. 「槻の木高校の現状と課題 — 2009年学校教育診断結果より — 」  
2. 「5期生の進路結果状況(今日現在)」

### ■学校長挨拶

②本日は、今年度の最終の学校協議会ということで、「学校教育自己診断」の結果、及び、現時点での進路決定状況を報告するので、ご議論いただきたい。

### ■議事内容

#### 1. 座長挨拶〔北浦委員〕

先日、第5回の卒業式を挙行し、第5期生を送り出した。  
本日も活発に助言・提言、意見交換を行いたい。

#### 2. 学校長挨拶〔松本校長〕

本日は、加治佐委員は兵庫教育大学の学長にご就任されご欠席、また、入江委員は公務のためご欠席である。

今年度も2回にわたってご議論いただいたが、今後ともいろいろとご提言いただきたい。

本校の教育方法が一定確立されたなかで育ってきたのが第5期生であり、その成果を十分に上げてくれたと思っている。本校が、次のステップへとどのように結んでいくかが、今後の大きな課題と考える。

#### 3. 学校からの報告

##### ①学校教育自己診断の結果を受けて〔堀学校運営室長〕

資料：「槻の木高校の現状と課題 — 2009年学校教育診断結果より — 」

[1] はじめに

今から述べることは、学校内の組織で検討したものではなく、私個人の分析と考えていただきたい。今後校内で議論を進めたい。

今回の内容について、基本的には、前回2006年度とアンケート項目を大きくは替えていない。

[2] 学校教育自己診断から見えてきたもの

A. 全体的傾向（第1の特徴・第2の特徴）

【意見交換】

〔芝井委員〕①「よくあてはまる」と②「ややあてはまる」との比率が大事だ。①と②を分けて微細な差をみるのもよい。

相関係数について、これを会議の場や保護者に伝えるのは工夫を要する。

全国的な調査と比較して、槻の木との違いをみることでもっとクリアになる。

B. 学力の育成に関わって

【意見交換】

〔宮坂委員〕「授業アンケートが活かされているか」に対する生徒の肯定的評価が低いことについて、アンケートをどう生かすのかを示すことが必要だ。教師が授業をどう工夫するかが大切だ。

〔芝井委員〕一方で、教え方に工夫している先生が多いという評価を得ている。アンケートをどう生かしたのかは生徒には分からないが、一定の評価をしているとも考えられる。学校長などの立場からアンケートを生かしているのだというメッセージが有用だ。

〔秋元教頭〕アンケートそのものについての考えを深めて、有効に活用していくことを考えることが必要だ。

〔宮坂委員〕学校から生徒に関わっていく事柄については評価が高いが、生徒が自らやっていく事柄に対する評価が低い。この点に注目すべきではないか。

〔芝井委員〕自学自習についても、3年前より評価は上がっている。工夫・改善されていることについては確かだと言えるのではないか。

〔秋元教頭〕生徒の自発的な学習習慣の確立を目標に置いている。1年生では、「金曜・土曜講習が学力向上に役立つ」との回答が低い、生徒の変化にその内容が対応したものになっていないのではないかと感想を持つ。

〔芝井委員〕基礎学習から発展学習へと内容を工夫すべきではないか。

C. 規範意識の醸成に関わって

【意見交換】

〔宮坂委員〕「先生の指導は納得できる」に対する評価が最も低い。納得できない大きな理由は、先生によって違う、一致していない、などの不公平感によるようだ。生徒が納得できるレベルの指導を探る必要があるだろう。

〔芝井委員〕自分の子どもも同じようなことをよく言っていた。

〔立石委員〕先生によって指導が一致していないことは確かによくある。

〔芝井委員〕100%納得のいく指導もどうかとは思いますが。

〔山本学習指導室長〕生徒指導室として指導にあたっている。学年毎に指導の差があればもっと大きな問題だ。

〔芝井委員〕保護者や第三者から、生徒指導に対するプラスのメッセージを発信してもらうことが有用だ。

〔秋元教頭〕在学中は学校生活を窮屈に思ったが、社会に出た今考えると、よかったと思うという1期生の言葉を聞いたが、生徒指導に関しては、在学中は不満に思っているでも将来その意味が分かり、良かったという評価に変わることもある。

#### D. 自主自立の精神の育成に関わって

##### 【意見交換】

〔松本校長〕体育大会・文化祭に対する評価が低いですが、実施した直後のアンケートでは90%の支持があるのだが。

#### E. 教員・学校体制への評価に関わって

##### 【意見交換】

〔宮坂委員〕「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することのできる先生がいる」に対する評価が低い(38% 前回44.3%)。しかし、全国レベルでは10%に満たないと思う。まだまだ信頼が高いと言える。

「登下校時に身の危険を感じたことがある」(22.6% 前回19.2%)については、内容を精査すべきではないか。

〔柿原委員〕警察では、中学生の夜の徘徊が課題だが、早く内容の調査をすべきだ。

#### F. その他の項目

##### 【意見交換】

〔松本校長〕携帯電話の利用時間が気になる。

〔山本学習指導室長〕高校生・大学生では「時間」の使い方が重要だ。上手と下手では大きな違いが生まれる。

〔芝井委員〕依存症だ。その傾向にある者に対して自らコントロールせよというのは、少々対応が甘いと言えるのではないか。

〔柿原委員〕テレビゲームと同様に時期的なものとも考えられる。成長の過程であるのかもしれない。

〔立石委員〕「平日の授業以外での一日の平均勉強時間」の項目で、1年生に、「30分」及び「していない」と回答した生徒が多いのはどういうことか。授業に付いて行けない子どもが多くいるということではないか。

〔山本学習指導室長〕進路関係のアンケートでは、平均65分となっているので、今回の結果はどういうことなのかと思う。

ただ、アンケート結果では、2年生、3年生と学年が進むにつれて、「30分」「していない」という回答は大きく減少している。それは本校の取組の成果とも考えることができ、むしろ1

年生で「30分」「していない」の回答が多いのは当然のことと言えるのかも知れない。

## ②5期生の現時点での進路結果状況報告〔山本学習指導室長〕

資料：「5期生の進路結果状況（今日現在）」

- ・国公立への合格者 → 増加の傾向。
- ・私大「関関同立」 → 昨年度の約30人から約80人へと増加。
- ・「関関同立」＋「産近甲龍」 → 昨年度とほぼ同様。比率の推移がみられる。
- ・同志社女子大・京都女子大などの女子大 → 苦戦している。
- ・センターテストの受験者 → 50%から65%へと増加している。

3年生の学校生活の空気が一変した。

推薦入試ですでに合格した生徒も、全体のムードを壊すことがなかった。進路が決定しているにもかかわらず、12月、1月、2月の講習を受けたり、自習室で高校の勉強を復習していた。全体として頑張りやすい状況になったことが大きい。

5期生から、創立時のモチベーションを手直しして、第2の段階に入ったと考えている。

生活指導が確立してきた。生徒指導がレベルアップしたと言える。結果、遅刻が大きく減少した。それが学習環境の確立につながった。

ところが、国公立に向かわせたい生徒を取りこぼしているという事実がある。数字が上がれば上がるほど気を引き締めなければならない。

教員の受験観が変わった。頑張れば伸びることを実感している。

学力向上を阻むものがある。伸びる子と伸びない子がいる。違った指導方法等を工夫するなど、なぜ伸ばせないのか、何が原因かを探らねばならない。

### 【意見交換】

〔北浦委員〕 どうして女子大が伸び悩んでいるのか。全体として伸びないのはなぜか。

〔秋元教頭〕 一部の女子大では、かなりの学力を要するようになってきているところもある。しかし、本校でそれらの女子大に合格するようなレベルの生徒が、もう1ランク上の他大学を受けようになってきた。

〔芝井委員〕 女子大の勝ち組と言える。

〔北浦委員〕 新入生の傾向はどうか。

〔山本学習指導室長〕 より難関な入試結果となった。男子95名、女子145名で2.08倍。

〔北浦委員〕 中学校の指導も変化してきたのではないかと推察できる。

## 4. 各委員よりの提言

〔柿原委員〕 全体的に評価が高まっている。職員のチームワークの良さが生徒や保護者に伝わった結果だと思う。今後も頑張ってもらいたい。

〔北浦委員〕 PTAとしては、学校の取組には満足している。1日2時間は勉強させよなど保護者へのメッセージをより強く発信してほしい。

施設・設備については、PTAとしても、5年10年の展望を持って支援していきたいと考えている。

〔小野事務長〕アンケート項目「学校の施設・設備の壊れたところは、すぐに修理される」に対する評価（42%）が低いのはショックを受けた。すぐに直しているが、予算措置の必要なものもあるので。

〔芝井委員〕教員の意識改革を進めるべきだ。頑張れば届くところにある、指導が進路実現につながるという実感があること。生徒自身がどんな人生を生きていくのかが大事だ。その基礎の部分の教育を担っている。「志」に関する教育も実践してほしい。

〔立石委員〕地元の住民としても期待をしている。「槻の木」になって学校が生まれ変わった感がある。今後の発展へとつなげてほしい。

〔宮坂委員〕校風を積み上げてきている。次の世代へと発信できている。次の段階へとどうステップアップをはかっていくかが大事。礎石づくりのみではなく、将来像につながるように、「どうすればよいのか」「どうあればよいのか」を示しておくべき。自学自習の部分は子どもに任せ、「伸ばす」ところに力を注ぐべきではないか。補習ではなく、授業で成果を上げられないか。今までとは違った生徒を補習で向上させられないか。今、ターニングポイントだろう。

〔秋元教頭〕分析を深め、次のステップへと進めたい。